

NISAで先進国株を選んでいれば1年+28%、3年+38%、5年+85%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受!
実際、日本株投信より先進国株投信を選んでいた様である
～最新の投信全体のフロー、NISA向けファンドのフロー、つみたてNISAのフロー～

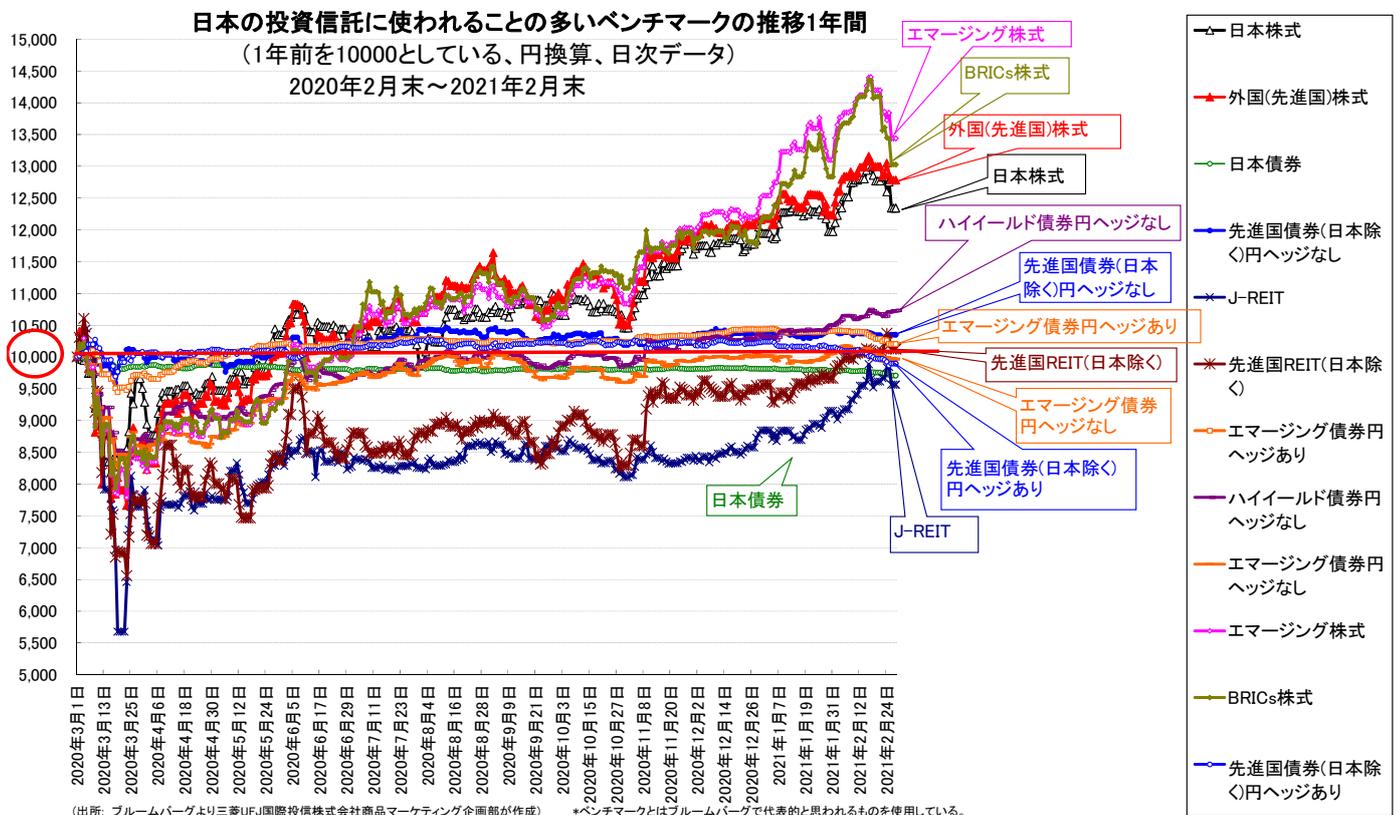
三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

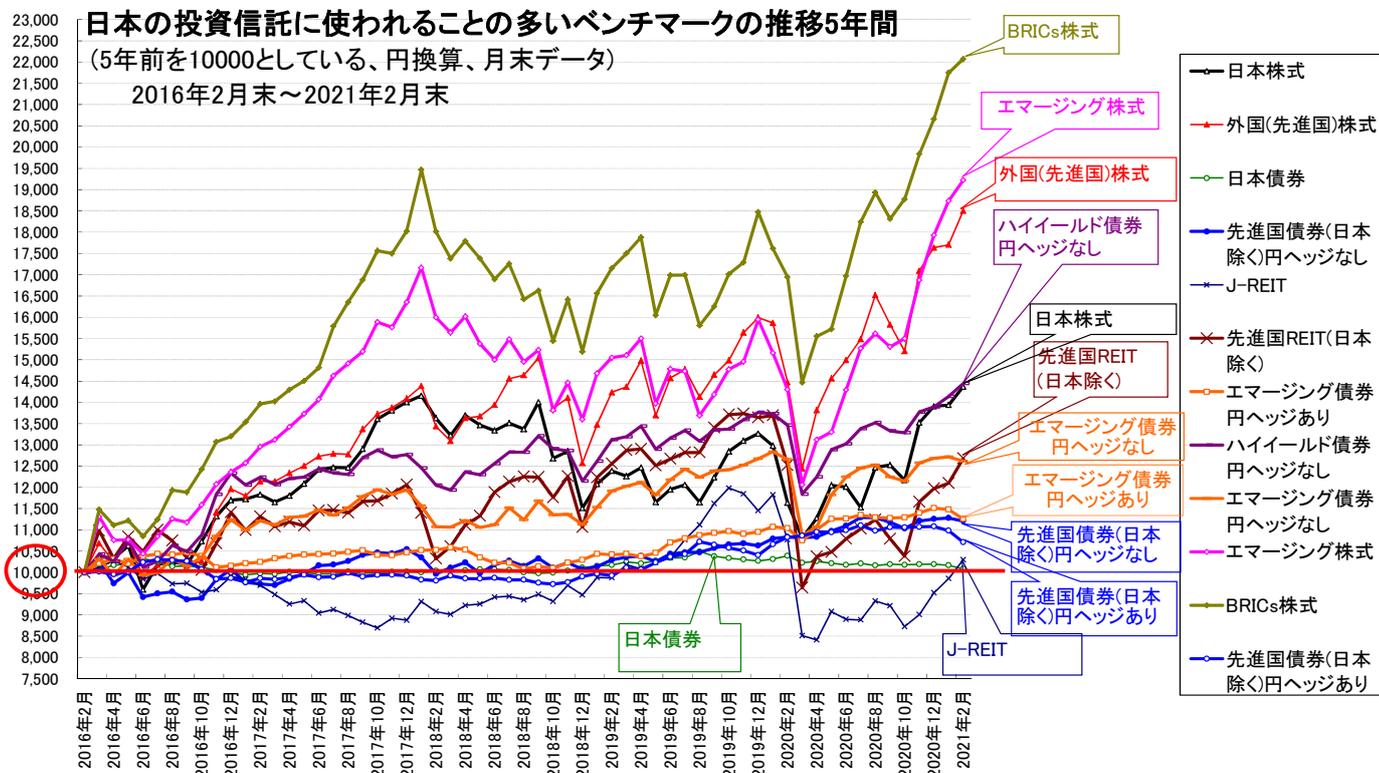
NISAで先進国株を選んでいれば1年+28%、3年+38%、5年+85%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受!

2021年2月28日付日本経済新聞電子版に「20年に値上がりした投信 テクノロジー関連では2倍超も」と言う見出しで「コロナ禍の話題一色だった20年、株式相場は大幅下落となった3月中旬を底に内外共に上昇。投信については、コロナ後の社会で必要とされる技術に注目したテクノロジー関連や、中小型株関連の投信が好成績を収めた。」とあった(2021年2月28日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]①参照)。

そこで、2020年の急落局面も踏まえ直近まで日本の投信がどうなっているかを見るべく、日本の投信に使われる事の多いベンチマークについて、2021年2月末までの1年間パフォーマンス推移を見た。好い順に、エマージング株式、BRICs株式、先進国株式、日本株式、ハイイールド債券、先進国債券、エマージング債券などとなっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。



5年のパフォーマンス推移も見た。下記がそれで、好い順に、BRICs 株式、エマージング株式、先進国株式、ハイイールド債券、国内株式、先進国 REIT など(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している

先進国株式のパフォーマンスは、1年、5年ではエマージング株式や BRICs 株式に次いで好く、3年では最も好いパフォーマンスだった。NISA の非課税期間は5年間で、NISA で先進国株投信を選んでいれば、新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的流行)など急落する局面が何度かあったものの、下記テーブル通り、1ヶ月+5%、3ヶ月+8%、6ヶ月+12%、1年+28%、3年+38%、5年+85%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受となった事であろう。

日本の投資信託に使われることの多いベンチマークの円換算パフォーマンス(単位: %) ~5年パフォーマンスの高い順~ *年率換算せず

2021年2月26日

指数名	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年
1 BRICs株式	+1	+11	+17	+30	+23	+121
2 エマージング株式	+3	+14	+23	+34	+20	+92
3 外国(先進国)株式	+5	+8	+12	+28	+38	+85
4 ハイイールド債券円ヘッジなし	+2	+5	+7	+7	+20	+44
5 国内株式	+3	+6	+15	+23	+5	+44
6 先進国REIT(日本除く)	+5	+9	+13	+1	+23	+27
7 エマージング債券円ヘッジなし	-1	+0	+1	-0	+14	+26
8 エマージング債券円ヘッジあり	-2	-1	-0	+2	+7	+13
9 外国(先進国)債券円ヘッジなし	-1	+0	-1	+3	+12	+12
10 外国(先進国)債券円ヘッジあり	-2	-3	-2	-1	+9	+7
11 国内不動産/REIT	+4	+14	+10	-4	+13	+3
12 国内債券	-1	-1	-1	-3	+0	+1

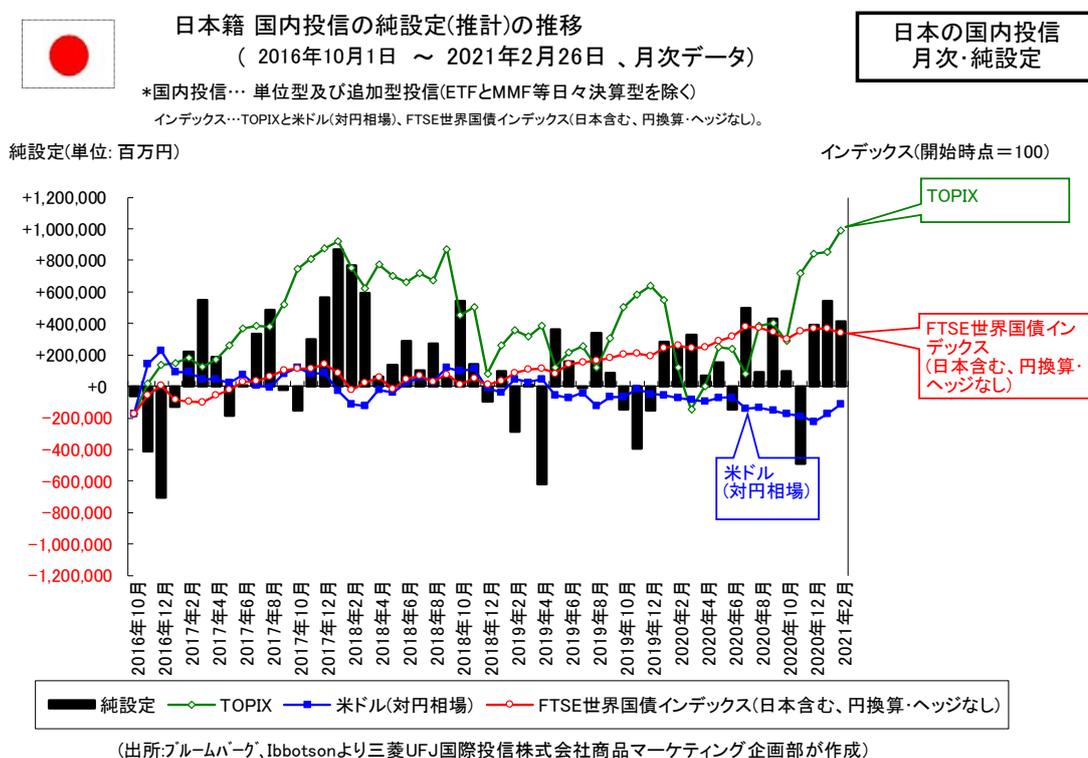
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

先進国株投信(テクノロジー株含む)が選好されている。 ～最新の投信全体のフロー、NISA 向けファンドのフロー、つみたて NISA のフロー～

続いて恒例となっている、日本の投信、特に NISA の投信で 2021 年 2 月、どのようなファンドが買われたかを見る。当コラムでは投資家を「既存投資家」と「新規投資家」とに分けている。前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、後者の「新規投資家」は「NISA 向けファンド」(後述※1 参照)で代替する。これは日本証券業協会が「NISA を利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URL は後述[参考ホームページ]①参照)と言っている事も参考としている。

<投信全体のフロー～既存投資家(投信全体)ではグローバル株、テクノロジー株、米国株～>

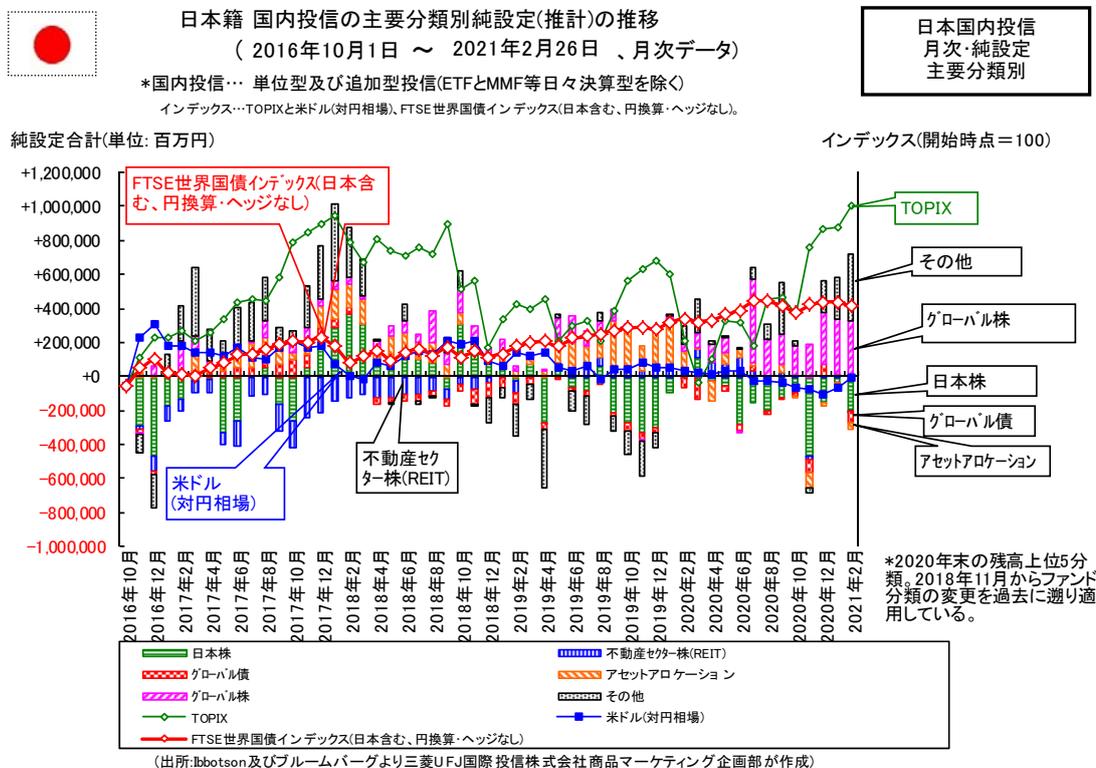
まず、既存投資家を示す投信全体(単位型及び追加型投信～ETF と MMF 等日々決算型を除く～)の純設定だが、**最新 2021 年 2 月に+4115 億円と、前月 1 月(+5401 億円)を下回るものの、3 カ月連続の純流入だった。**



この 2021 年 2 月の既存投資家の純設定を、投資対象別で見よう(主要分類～後述※2 参照)。次頁に示される通り、2021 年 2 月の純設定最大はグローバル株+3300 億円。次いで資金を集めたものは、テクノロジー・セクター株や米国株だった(次頁グラフでテクノロジー・セクター株と米国株は「その他」に含む)。

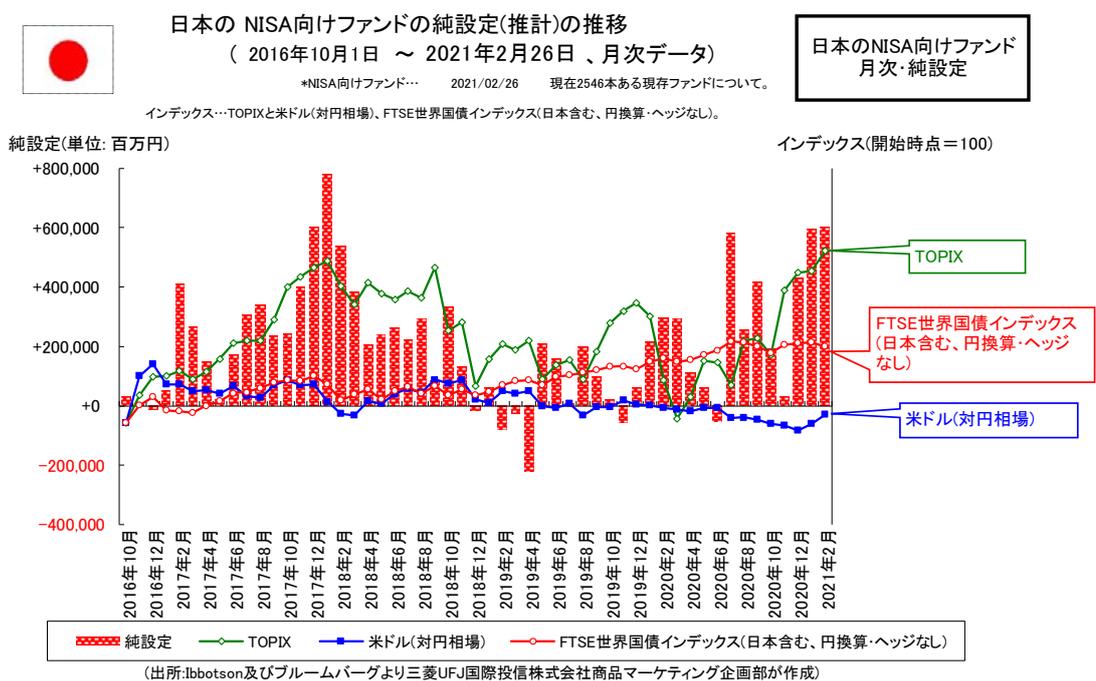
前年 2020 年(1～12 月)の純設定額が+1.9 兆円超となったグローバル株は、2020 年 12 月から 3 カ月連続で 3000 億円超となり、今年 2021 年(1～2 月)は、既に 2 カ月間で+6500 億円と、2019 年(1～12 月)の+6752 億円に匹敵する規模となっている(←2018 年+8511 億円←2017 年+6400 億円)。 グローバル株に投資することの多いテクノロジー・セクター株も純流入加速傾向で、最新 2 月は+2582 億円と 8 カ月連続の純流入だった(←2020 年+8000 億円←2019 年-8970 億円←2018 年+8740 億円←2017 年+1.5 兆円)。

米国株は最新2月に+1750億円と2019年12月以来の大きな純流入となり、2019年5月から22カ月連続の純流入。ちなみに前年2020年(1~12月)に米国株は+1.1兆円と、テクノロジー・セクター株+8000億円を上回り、グローバル株+1.9兆円に次ぐ大きさである。

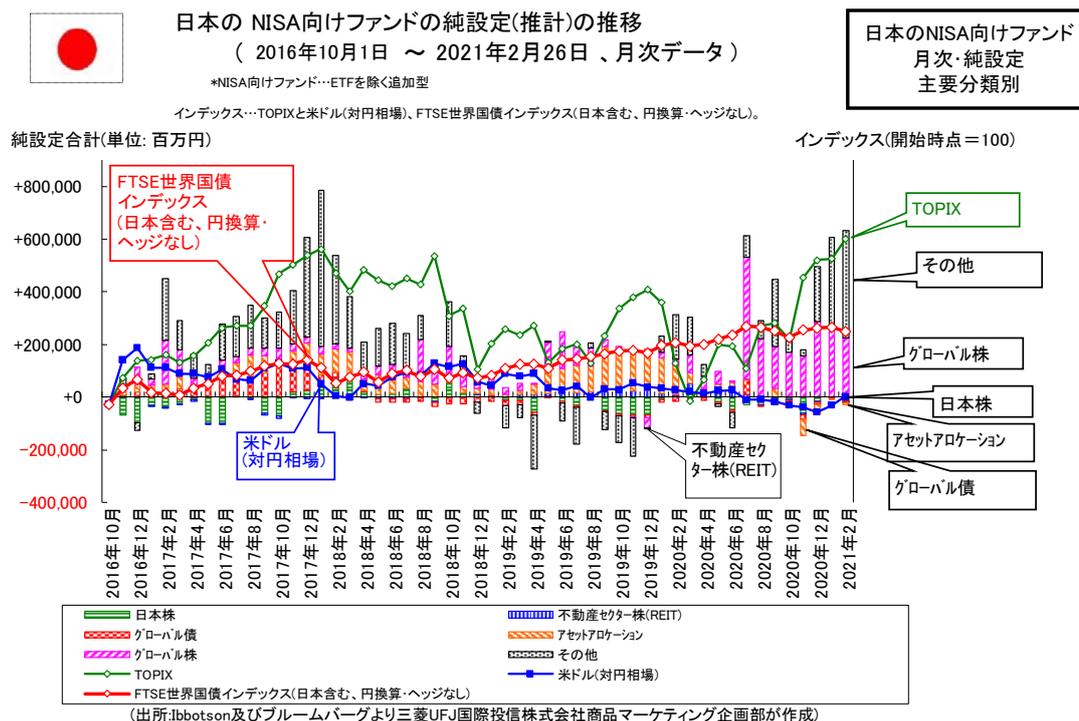


<NISA 向けファンドのフロー～新規投資家はテクノロジー株、グローバル株、米国株～>

次に、新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。最新 2021 年 2 月は+6018 億円と、2018 年 1 月 (+7824 億円) 以来の大きな純流入で、8 カ月連続の純流入(*NISA 向けファンド…後述※1 参照)。



この新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。 **2021年2月に純設定が最も大きかったのは、テクノロジー・セクター株、次いでグローバル株、米国大型ブレンド株である**(下記グラフで、テクノロジー・セクター株や米国大型ブレンド株は「その他」に含む～後述※2参照)。テクノロジー・セクター株は2月の純設定が+2275億円と、2018年1月(+2276億円)以来約3年ぶりの大きな純流入で8カ月連続の純流入。NISA向けファンドにおいてテクノロジー・セクター株の純資産は約5兆円と、日本株1.3兆円やアセットアロケーション4.5兆円を上回り、グローバル株の約6兆円に次ぐ大きさとなっている。



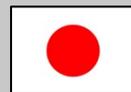
<つみたてNISAのフロー～つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)は米国株とグローバル株～>

最後に、つみたてNISA適格投信を使い、つみたてNISA投資家の純設定を見る(金融庁「つみたてNISAの対象商品」及びつみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道その179～後述[参考ホームページ]①参照)。

つみたてNISA利用者(口座数)は、2020年12月末時点に前年末比+60%の302万8259人と、2年連続で二桁台の増加率となり、投資家拡大が期待されている。 一般NISAの利用者(口座数)は前年末比+4%の1221万1468人、ジュニアNISAは同+29%の45万4614人だった(2021年2月26日付金融庁～URLは後述[参考ホームページ]①参照)。

なお、ここで使うのは、つみたてNISA適格投信であり、つみたてNISA以外で購入された分を含む(ETFを除く)が、分散・積立投資の資金動向を示すものとも思われる。つみたてNISA投資家の投信純設定は、2021年2月に+939億円と、前月1月(+1050億円)を下回るものの3カ月連続の純流入となった。

※1: NISA 向けファンド…

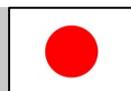


投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は下記参照)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。日本証券業協会は「NISA 制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等は NISA 制度を十分に利用できない場合がある」(URL は下記参照)、投資信託協会は 2013 年 11 月 21 日に「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」の中で「NISA においては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」と言っている(URL は下記参照)。

尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2021 年 2 月 26 日時点で 2546 本となった。

以下、参考 URL である。金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、2019 年 4 月 26 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」。

※2: 主要分類…



モーニングスター分類で 2020 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類である。グローバル株は、2018 年 11 月 1 日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。米国大型グロース/ブレンド株、CB、テクノロジー・セクター株、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

以上

[参考ホームページ]

- ①2021年2月28日付日本経済新聞電子版「20年に値上がりした投信 テクノロジー関連では2倍超も」…
「<https://r.nikkei.com/article/DGXZQMC16BCP0W1A210C200000?type=my#AAAUgYwMA>」、
2020年6月19日付日本証券業協会「NISA制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、
金融庁「つみたてNISAの対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、
つみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…
「<https://www.am.mufg.jp/text/oshirase.170424.pdf>」、
2021年2月26日付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の利用状況調査(2020年12月末時点(速報値))」…
「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20210226/01.pdf>」、
2020年2月13日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査結果-2019年」…
「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2019/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…
「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」、
「<https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html>」

～Google等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索～

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。